



## 市民の声でより良い敦賀港へ！！

令和元年11月29日（金）、敦賀に関連する日本海沿岸地域の郷土史を調査研究する市民グループ「日本海地誌調査研究会」と当事務所が、敦賀港について意見を交換する「サロン懇談会」を開催しました。同懇談会は、行政や港湾関係者だけでなく、様々な分野の方々の意見を敦賀港の整備に活かしていくため、平成12年から毎年開催しており、今回で20回目となります。

開催にあたり、当事務所の下田所長より「昨年はまつかぜにより港内を見ていただきましたが、港湾整備も進んでおりますので、敦賀港を取り巻く港湾行政についてと題して、進捗状況について報告させていただこうと思います。サロン懇談会ということで、形式にとらわれず忌憚のない意見をいただけたらと思います。」と挨拶し、続いて日本海地誌調査研究会の竹内会長から「お忙しいところ綿密な準備をしていただきありがとうございます。毎年状況が変わりつつある敦賀港について、報告いただけることは大変有り難く思っております。本日はよろしくお願い致します。」と挨拶を頂きました。

その後、当事務所の綿貫技官から「敦賀港の事業概要」「クルーズ振興について」、福尾企画調整課長から「港湾の中長期政策「PORT2030」と題して、三つの情報提供を行いました。

意見交換では、「大規模災害時の太平洋側港湾の代替港として機能させるためにはソフト面の対策や港湾業者との連携が大切」、「日本海側港湾では小型のクルーズ船（ブティッククラス）の誘致をして、金ヶ崎とか町に近い岸壁に着いてもらうのが良いのではないかなど、敦賀市や敦賀港が発展していくための様々な意見を頂き、活発な意見交換の場となりました。



下田所長挨拶



竹内会長ご挨拶



情報提供の様子



意見交換会の様子